



4人の議員が 町政を問う 一般質問

一般質問は、行政全般にわたって執行機関に疑問点をだし、説明を求めたり、所信を問いたすものです。

渡邊 忠義

- 地域価値を向上させるまちづくりの効果的な推進をするための取り組みについて
- 農業経営基盤強化促進法に基づき、地域の農業をどうしていくか、地域で話し合った計画を見える化するための取り組みについて

P11

北郷 伯弘

- イノシシ被害防止電気柵消耗品交換代金の補助について

P12

遠藤 浩

- 町長の海外出張旅費について
- 街路灯・防犯灯の設置状況について
- 行政職員の就業管理について

P13

高木 光雄

- 町民へ公募している「町長への手紙」について
- 広野町行政機構改革検討委員会について

P14

追跡レポート

議員の質問・提言に答える町執行部、その質問・提言をどう町政に反映させているのか、対応を追跡しました。

令和6年6月定例会 一般質問 北郷 伯弘 議員

停止線設置の安全対策は可能か

町道大平・館1号線と町道館線が交わる交差点の安全通行対策として、各々に停止線を設けることは可能か伺います。

指導停止線を設置する

法定外の自主的な停止を促す白色の破線の指導停止線を設置し、車両の自主的な停止を促し、安心・安全の確保に取り組みます。

交差点に指導停止線が設置されました



指導停止線（館地区）

特別栽培米

「ひろのてらす」での販売は？

町長／前向きに検討する

渡邊：広野町の歴史や場所や産物に興味づけを与えて、来てくれた人がストーリーを感じられるようになれば、広野町の地域価値を向上させることができると思います。

広野町のストーリーを考えるとすれば、私は稲作農業だと考えます。

農道や水路の除草等の維持管理に努め、生産者と一体となり協働作業に取り組みでおります。

特別栽培コシヒカリとんぼのめがね米は広野町の人々の努力の賜物、自然の恵みの結晶であり、広野町のストーリーがつまっています。

町長：特別栽培米コシヒカリを本年産からとんぼのめがね米と名付け、町の魅力発信のシンボルマークであるSマークを使用したパッケージに更新しました。現在、イオン広野店において、お米を販売

する際は、中間事業者を介して仕入れることとしております。

とんぼのめがね米の販売について、イオン広野店での販売導入を前向きに検討し取り組んでいきます。

農業経営

法人化に向けた措置は？

町長／県講習受講を体制化

渡邊：農業経営基盤強化促進法の規定に基づき公表された折木土地区は、83.5haと決定され、担い手5名で農地集積を図らなければなりません。

同法では、地方公共団体は、農業経営の法人化の推進、農業経営の改善を行うおとする法人に対する投資の円滑化、その他の措置を講ずるよう努めるものとするとされており

町長：県において「法人に関する制度・基礎知識」「法人化に向けての心構え」などの各種講習会を実施しており、相双農林事務所双葉農業普及所など関係機関と適時的確に連携・強化し、支援体制を図っています。

複式簿記などの講習会は、福島県農業経営・就農センターが開催するアグリビジネススクールにおいて講習に取り組みしておりますので、講習受講の体制化に取り組んでいきます。

法人にすると複式簿記での記帳が義務付けられ、厳格な財務管理が必要のため、税理士による講習会の開催を講じていただけないか伺います。



わたなべ ただよし 議員
渡邊 忠義

中山間地域の傾斜地水田のため、稲作の条件としては厳しいものがありますが、認定農業者だけでなく、水田地権者も一緒になって、

今後のまちづくりは、地域資源をより高めると同時に、地域価値を高める必要があります。地域の魅力を商品化するための経済活動が必要と思われる。

「ひろのてらす」で、特別栽培コシヒカリとんぼのめがね米を販売してはどうか見解を伺います。



とんぼのめがね米パッケージ
左) 表面：シンボルマークSマーク
右) 裏面：名称の由来、とんぼのめがね歌詞